

2022年度 第21回通常総会・レポ

青木 幸子

2022年度第21回通常総会は、5月14日(土)14時より奈良市中部公民館4階の第3・4講座室にて、ソーシャルディスタンスを保ちつつ開催されました。

出席者29名と委任状提出者99名合わせて128名で、会員総数154名の過半数に達し、総会は成立しました。

千載会長が、「コロナ禍に翻弄された年でしたが、何とかウイズコロナが定着し、会員の皆さま方が「うつらない、うつさない」を基本に適切な判断をしてご参加いただいたおかげで、会長就任1年間を大過なく何とか役割を果たすことができ感謝しています。そして「明るく 楽しく 無理をせず」の原点を忘れず、お互いに力を合わせて活動の推進に努めてまいりたいと思いますので宜しくお願いします」と挨拶。

続いて、司会者より議長選任について諮られ、塩本勝也さんを議長に選任。第1号議案の審議が開始されました。



まず、千載会長から「コロナ禍により活動自粛を余儀なくされた期間もありましたが、それぞれの活動はもとより、アンケートによる会員

の思いの共有、記念誌と樹木編図録の発行をはじめ、モニュメントを含む里山林エントランスの整備、猿沢池漁礁作りなど、いくつか

の20周年の取り組みも実施することができ、多くの活動成果を上げることができました。また緑綬褒章受章は新たな歩みに向けての大きな励みとなりました」と1年間の活動総括報告がありました。

続いて、ならやま委員長、各グループリーダーからならやまプロジェクトがコロナ禍中にありながら何とか後退することなく維持できたこと、また、イベントや月例研修、自然教室も中止せざるを得ないこともあったが、可能な限り実施したことについて報告がありました。会計報告では、健全な財政状態を維持できていることが報告さ



れ、監査役による適正に処理されているとの報告があり、第1号議案は、満場一致で承認されました。

次に、第2号議案・役員改選について、千載会長から昨年末からの会員による推薦に始まり、役員候補提案に至った経緯などについて説明があり、議場に諮られた結果、満場一致で承認されました。

この後、総会はいったん休憩となり、その間、新役員による臨時幹事会が開催されました。

総会が再開され、千載幹事から、臨時幹事会において、役職者(会長:千載輝重、副会長:太田和則、小島武雄、辻本信一、富井忠雄、平田範光、会計:尾崎信次、監査役:岡田安弘)



選任、および顧問・参与(阿部和生、古川祐司)退任について報告がありました。

続いて、第3号議案の審議に移りました。先ず千載会長から、事業活動方針について、「2022年度は、新たな10年20年への第一歩の年ですが、会員の高齢化や活動資金の減少などが避けられない状況です。これまでの成果を踏まえ、どのようにこれを活かし守っていくかが最大の課題で、『仲間への尊敬と感謝』を大切にお互いに力を合わせて少しずつでも前進していきたい。基本的な活動方針は従来通り、①会員の交流、地域との協働活動を基本とし、②里山保全、生物多様性維持復活とその一環としての自然環境教育を進め、③自然を愛し、次世代に引き継ぐということを念頭においた活動を推進します」との説明がありました。

この後、ならやまプロジェクト、月例研修、自然教室、イベントなどの諸活動計画について説明があり、また、予算については年間収支は支出過多となっており、前年度繰越金によって補うが、先行き収支はかなり厳しくなるので今後とも経費節減に努力をお願いしたいとの説明があり、第3議案も満場一致で承認され、第21回通常総会は無事終了しました。

今年も懇親会は開催できませんでした。お互いに胸襟を開いて情報交換を行う場が持てなかったのですが、一日も早く、コロナが収束し日常の生活スタイルが取り戻せることを願っています。